

月平均 500mb 天気図. 1991年 2月

(破線は平年からの偏差. 単位m)

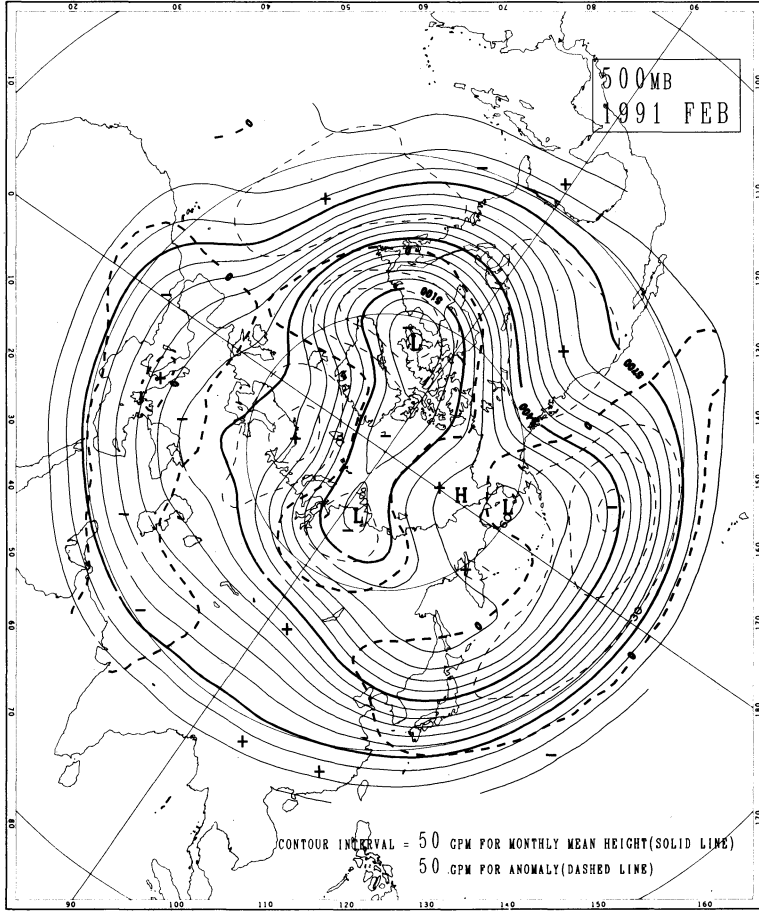


表1 1991年 2月の気候表

地名	気温 ℃	偏差 ℃	DT/SD	降水量 ミリ	比率 %	降水 階級	地名	気温 ℃	偏差 ℃	DT/SD	降水量 ミリ	比率 %	降水 階級
パリ	—	—	—	—	—	—	カサブランカ	—	—	—	—	—	—
ベルリン	-2.2	-2.7	-1.0	21	63	2	ニオロドサヘル	24.9	-0.7	-0.5	0	0	—
ローマ	—	—	—	—	—	—	プレトリア	23.1	1.8	2.3	90	105	3
イスタンブール	—	—	—	—	—	—	バンクーバー	7.1	2.5	1.9	143	125	5
モスクワ	-6.7	1.7	0.5	36	96	—	ニューオリンズ	14.6	1.8	0.7	138	100	4
オデッサ	0.7	2.0	0.7	0	0	—	セントルイス	5.4	4.8	1.4	25	46	2
ニューデリー	17.7	0.5	0.4	48	327	5	サンフランシスコ	12.9	2.0	1.8	96	113	4
カルカッタ	25.1	1.7	1.4	11	48	2	ニューヨーク	4.6	3.9	1.8	49	68	2
ボンベイ	24.1	-0.9	-1.0	0	0	4	マナウス	26.6	0.7	1.0	224	83	2
ホンコン	17.1	1.2	0.4	8	19	1	リオデジャネイロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	-11.0	1.7	0.6	0	0	1	ロサリオ	22.4	-0.5	-0.4	21	20	1
ペキン	0.1	2.1	1.2	0	0	1	ホノルル	23.0	0.5	0.7	46	65	3
シャンハイ	5.9	1.6	0.8	104	166	5	タヒチ	27.5	0.8	1.6	77	34	2
バンコク	28.5	0.8	1.1	7	27	—	ダーウィン	27.3	-0.5	-0.6	578	167	5
マニラ	—	—	—	—	—	—	キャンベラ	22.5	2.7	2.7	19	35	2

2月の世界の天候

2月の月平均500mb高度天気図では、日本付近から太平洋域にかけて東西に負偏差域が広がり、その東の北アメリカ西岸ではリッジが発達している。このリッジは2月をとおして持続した。ヨーロッパ北部に正偏差域があるが、これは上旬に顕著であったブロッキング高気圧によるもので、その南側のヨーロッパ中西部は低気圧部となり、強い寒気の流入があった。このブロッキング高気圧は中旬には解消した。

① 北アメリカ東部、中西部の少雨

② 北アメリカ北西部の高温

北アメリカ西岸の発達したリッジの影響で東部、中西部では少雨となり、北西部では高温となった。東部のワシントンで月降水量21mm（年の31%）、北西部のエドモントンで月平均気温 -0.7°C （年偏差 $+8.9^{\circ}\text{C}$ ）など。干ばつが深刻になっているアメリカ合衆国南西部では、ほぼ年並の降水があったが干ばつが解消されるにはいたらなかった。

③ アルゼンチン北部・ブラジル南部の少雨

アルゼンチン北部、ブラジル南部、パラグアイなどの穀倉地帯で少雨となり、穀物相場の大豆の値段が上がった。ブラジル北部のアマゾン流域でも少雨傾向であっ

た。

④ オーストラリア南部の高温少雨

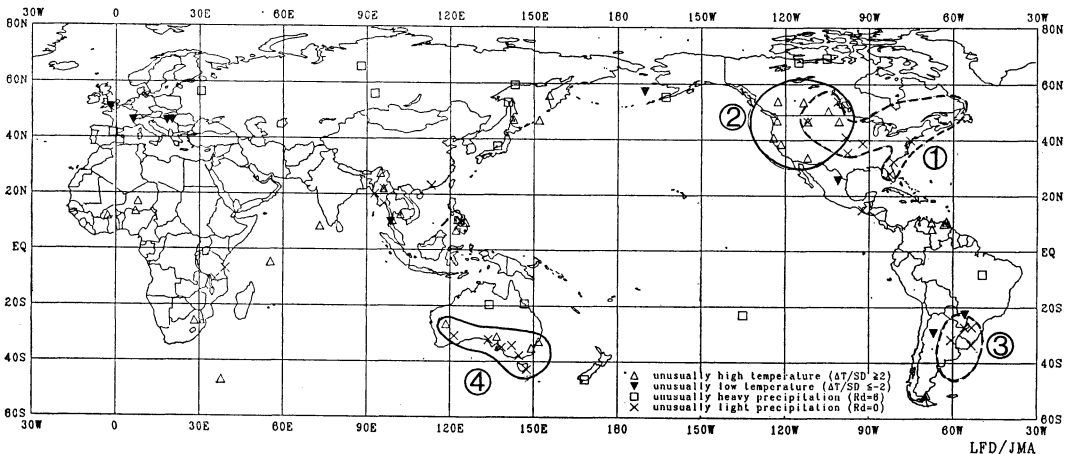
オーストラリア南部では記録的な高温少雨となり、国立公園の火事のニュースが大きく報じられた。キャンベラで 22.5°C （ $+2.7^{\circ}\text{C}$ ）など。一方、オーストラリア北部では、1月に引き続きモンスーンの活動が活発で、平年のほぼ2倍の降水量となった。タウンズビルで865mm（平年の2.9倍）など。

その他

ヨーロッパでは、上旬に寒波が襲って、イタリアのベネチアで運河が凍結するなど、西部、南部を中心に被害がでた。この寒波の影響で、西部から地中海地方にかけて低温となった。また、西部では降水量が平年の50%程度で少雨傾向であった。ソ連から北欧にかけては気温が平年より高かった。

高温の続いていた東アジアでは、カムチャッカ、サハリンなどでかなりの高温となったが、中国を中心に年並の気温になったところが多い。日本も北日本で高い場合は年並の気温となった。

（気象庁長期予報課 前田 修平）



1991年2月の世界の異常天候分布図

△：高温 ▼：低

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

□：多雨 ×：少雨

1991年2月の気候表の説明。平均値は1951～1980年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。